

日本病院薬剤師会雑誌

第45巻6号 2009年

6

総説

根拠に基づく漢方治療実践への 基礎研究からのフィードバック

竹野 伸洋 他

巻頭言

ファジーからの脱却

山形県病院薬剤師会会長 鈴木 啓之

話題のくすり

ラモセトロン塩酸塩 (イリボー[®]錠) 佐々木大輔



社団法人日本病院薬剤師会
The Japanese Society of Hospital Pharmacists

日病薬誌

J.Jpn.Soc.Hosp.Pharm.

病院紹介

いつの時代でも
やるべきことは医療現場にある

医療法人渡辺会大洗海岸病院薬剤部

新井 克明 Katsuaki ARAI

病院の概要

大洗海岸病院（以下、当院）は1936年（昭和11年）、水戸市にあった厚生病院（後の国立水戸病院）の分院「大貫サナトリウム」として設立されました。1957年の現病院名「大洗海岸病院」への改称を経て、70年以上にわたり地域医療に貢献してきました（図1）。当院は地域に根ざした私立の病院であり、患者さんとの距離が非常に近いのが特徴です。患者さんとスタッフは家族のように挨拶を交わし、当院を自分の家のように利用していただいています。それに応えるように、予約なしで外来受診ができ、検査を行ったその日のうちに検査結果のみならず診断結果まで患者さんに提供するというサービスを行っています。中小病院としては贅沢なMRI、CTを持っており、放射線専門医が常駐しているので、検査センターとして地域の開業医に開放して機器の有効利用を図っています。日本医科大学老年内科教授を中心とした介護老人保健施設（以下、老健）におけるチーム回診も特徴で、入所者やその家族に好評です。薬剤師もこの回診に参加して、排便・睡眠コントロールの提案、嚥下障害患者などへの簡易懸濁法を含む対応や褥瘡予防と治療の助言など活躍する機会が多くあります。

薬剤部の概要

外来患者数1日平均372人で、外来患者への処方せん発行枚数は1日平均230枚、院外処方せん発行率約96%です。入院処方せんは約1,200枚/月、老健の処方せん約300枚/月、注射せん約1,500枚/月、薬剤管理指導約100件/月です。薬剤部は、薬剤師4名（助手なし）で業務を切り盛りしています（平成21年3月1日現在）。地方の病院なので入院患者の多くが高齢であることを踏まえ、それに応じた優しい仕事を心がけています。「患者さんのため」を第一優先にしており、キャッチフレーズは「Dr. コトーのようなやさしい薬剤師を目指しませんか？」です。

当院の薬剤部員は、業務のなかの様々な疑問点・問題点などをこつこつと解決しています。このことにより自分たちの業務がやりやすくなり、また質も向上します。



医療法人渡辺会概要

【大洗海岸病院】	病床 177床	一般病床 142床	【大洗海岸コアクリニック】
	診療科 13科	療養病床 35床	【介護老人保健施設おおらい】
	病棟 4病棟		【訪問看護ステーション大洗】
			【居宅介護支援センターこうよう】

図1 大洗海岸病院

そして、患者さんやスタッフから感謝されるなど達成感も得られ、モチベーションが向上して楽しく仕事を行うことができている。2005年に簡易懸濁法を院内全体に導入した^{1)~3)}ことをきっかけに、継続して業務改善を続けており、改善内容を学会発表で広く世の中に評価していただくという作業を続けています。他施設、大学、企業などたくさんの方々に教えをいただいで共同研究も多々行っています。しかし、残念なことに人的・時間的・金銭的に余裕があるわけではなく、取り組みたい課題や論文作成が山積みで、今後の課題です。

最近の主な研究内容

- ・アルブミン適正使用サポートマニュアルの作成
- ・薬歴表を組み込んだ「大洗処方せん」の有用性と発展性
- ・患者に喜ばれる酸化マグネシウム錠の検討
- ・リネゾリド投与による血小板減少と腎機能の関係
- ・軟膏混合調剤における画材使用の有用性
- ・お薬カレンダーを使った安全で効率的な与薬業務の検討
- ・抗菌薬適正使用サポートソフトの開発
- ・簡易懸濁時における安定性と相互作用の検討

特徴ある業務の紹介

入院されている患者さんは高齢の方が多いので、すべてのお薬を一化しています。また、分包紙には大きな文字で服用日を、さらに、入っている薬剤名も記載しています。それでも退院後に服薬が上手くできずに再入院



を繰り返す場合が多くあります。そこで、当院では与薬カートではなく、在宅などで使用のお薬カレンダーを使った独自の与薬方法を薬剤師と看護師の協力で考えました⁴⁾。入院当初からお薬カレンダーを使って与薬を行い、在宅における服薬のイメージトレーニングができるようにしました(図2)。この方法により、地域の患者さんの退院後のコンプライアンスが向上してきています。さらに、当院で考案した処方履歴が一目でわかる薬歴表処方せん(通称「大洗処方せん」)を使用することにより、リウマトレックス[®]などのように管理の難しい薬でも服薬開始や中止が処方せん上でリアルタイムに管理できるようになり、現在の服薬状況とその経緯が他職種にまでよくわかるようになりました^{5,6)}(図3)。その結果、院内ヒヤリハットの激減と効率化が達成できています。そのうえ、お薬カレンダーと大洗処方せんのコラボレーションは効率が良い、転記ミスのない持参薬の安全管理まで可能にしました。現在の課題は、このように整備してきた効率の良い安全な仕組みが、オーダーリングのシステムを導入することですべて振り出しに戻ってしまうことです。そのため、この蓄積してきたアイデア(入力

画面の背景に薬歴と検査値が表示され、その画面に直接処方を入力できるシステム)を事故の起き難いオーダーリング(電子カルテ)入力画面の共通仕様として利用して欲しいと行政やシステムエンジニアに提案・発信し続けている⁷⁾ところです。

また、当院は大学から派遣された若い医師も多いので、抗生物質や血漿分画製剤を適正に使用できるようにマニュアルを作成して提供しています。抗生物質適正使用マニュアルは初見ですぐ使えるシンプルなものにして、パソコン版と紙版を作ったことで医師に大好評です。パソコン版は、画面を切り替えたりスクロールすることなく、一画面で組織移行性に沿った薬剤選択とその患者の腎機能にあった投与量を選べるものです。また、血漿分画製剤適正使用マニュアルはフローチャートに沿って判断することにより大切な資源である血液製剤を正しく使えるようにしたもので、適正に使った後の保険請求の書き方マニュアルまで付けたことで大変喜ばれています。

おわりに

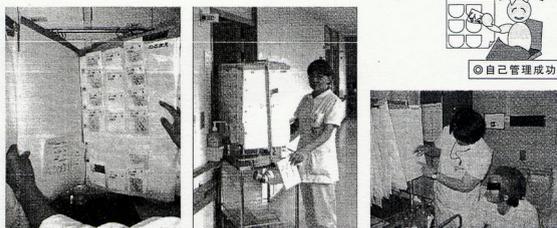
このように、小さな病院の臨床現場には多くの問題があり、それらは薬剤師の能力をフルに発揮できるやりがいのある課題ばかりです。当院は簡易懸濁法に真剣に取り組んだところから業務への見方が変わってきた気がします。努力した分大きな成果が得られる、ワクワクするようなテーマが転がっているのに、まだまだこの宝の山を拾いきれていません。薬剤師を増員して薬剤部さらに病院全体の質と活力を上げていけるように、現在、精一杯努力しているところです。

参考文献

1. 医業ジャーナル, 42 (3), pp. 991-998 (2006).
2. 月刊薬事, 48 (7), pp. 1067-1075 (2006).
3. もっと知りたい簡易懸濁法Q & A, じほう, 2007, pp. 36-42.
4. 第16回クリニカルファーマシーシンポジウム講演要旨, 2008, p. 274.
5. 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム講演要旨, 2006, p. 239.
6. 月刊薬事, 49 (7), pp. 943-946 (2007).
7. 第11回医薬品情報学会講演要旨, 2008, p. 100.

連絡先

医療法人渡辺会大洗海岸病院
〒311-1311 茨城県東茨城郡大洗町大貫町915
☎029-266-0551 (総務課)
E-mail : info@watanabekai.net
http://www.watanabekai.net/index.html



お薬カレンダーを洋服ダンスにハンガーを掛けるように吊す。裏には次週の薬や持参薬などを入れるポケットを用意。

病室に向いて、毎回、患者と一緒に薬を確認しながら与薬。

自己管理可能と判断されたところでお薬カレンダーをベッドサイドに移し、自己管理へ。

図2 お薬カレンダーを使った与薬

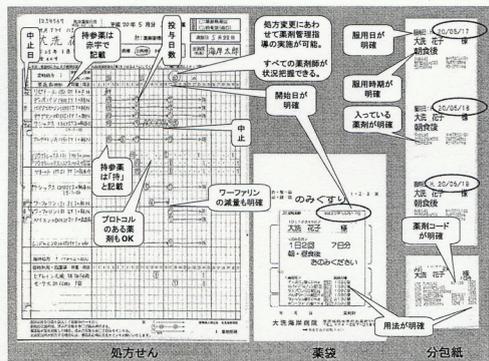


図3 大洗海岸病院の処方せん、薬袋、分包紙の関係